

第2期広島市立大学塾活動報告【6月12日】

国際学部国際学科2年

中島 弘深

“ホームレスのような方々について、基本的に自己責任だと思うか？

また社会や自分自身はどのように対応すべきか？”

今回の市大塾では、先週お招きした播磨聡さんのお話をもとに、以上の点を踏まえながらディスカッションを行いました。塾生、塾長、副塾長の中で、

「自己責任と捉えなければ何も変わらない、前に進めない」

「ホームレスの方は社会に対して良いイメージがないのではないか」

「アルバイト先の試供品や賞味期限が迫った食品を配ればいいのか」など、様々な意見が上がりました。また「社会のリスク管理」という面から意見を述べた人もいました。

私が非常に興味深かったのが、塾長も副塾長も「若いころは自己責任と答えていただろうが、いろいろ経験をして年を重ねた今はそう思わない」とおっしゃっていたことです。経験を重ねるごとにだんだんと考え方も変化していくものなのだとすることを目の前で見たような感じがしました。また、「ホームレスの方々は怠惰から抜け出すことが怖いのではないか？」「人間って弱くて悲しいものだ」とも話していて、私は今までそのようなことを感じたことはなかったけれど、いつかそう感じる時が来るのだろうか何とも可笑しい気持ちになりました。

私自身、答えを出すのに大変苦勞をしましたが最終的には自己責任ではないという意見を述べました。今まで育ってきた環境や社会の仕組みにも要因があるのは間違いないし、人は他人に対して優しくあるべきだと思ったからです。しかし、もしも街でホームレスの方を見かけたときに自分から歩み寄っていけるか？邪魔だと微塵も思わないか？なぜ働かないのかと考えないか？人には優しくあるべきだと分かっているにも関わらず、なるべくなら関わりたくないと思ってしまう自分がいて、嫌だなあと思いました。同時に「これが人間の弱さなのかもしれない」とも感じました。

最後には「自立を促す優しさ、厳しさ」「見捨てない優しさ、厳しさ」という言葉が出てきました。自分が調子のいい時にはきっとそういった気持ちを持てると思います。しかし、そんな時だけでなく、自分が悩んでいた、辛かったりするときにも人に優しくできる人間になりたいと思いました。

7月には皆で「夜回りの会」に参加します。先週どのような感じかお話を聞いて、映像を見ました。あまりにも未知の世界なので想像がついていないのですが、ただ素直な気持ちで触れあえたらなど今は思っています。